

授業科目	教養ⅢB		担当教員	湊 久恵	
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	90回	時間数 180時間
授業目的	公務員試験の教養科目としての国語及び文章理解、人文科学、社会科学分野についての実力を養成する。 消防採用試験の教養試験に合格するための実力養成、社会科学・人文科学・文章理解の得点力アップ。				
到達目標	公務員試験に合格するための国語・文章理解、人文科学、社会科学分野の知識および解答テクニックを身につける。				
テキスト・参考図書等	絶対合格シリーズ 文章理解テキスト 絶対合格シリーズ 社会科学テキスト・社会科学問題集 絶対合格シリーズ 人文科学テキスト・人文科学問題集				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70	定期試験、レポート等を基に総合的に評価する		
	レポート	0			
	小テスト	30			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	1回～18回 担当：湊 久恵/国語辞典（電子辞書可、スマホ不可）を持参、ノートを準備する。学生の能力により内容を変更することがある。 19回～90回 担当：軽部 諭/テキストに沿って授業を展開する。必須な知識を定着させ、そこから連想して解答できるようになるよう、何度も単元を繰り返す。一度学習したところと気を抜かず、取り組むように。ノートを準備。週初回授業では小テストを行う。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス、自己紹介 (湊)	公務員試験の文章理解、故事・ことわざ		
	2	文章理解、国語、英単語 (湊)	SPI 対策、四字熟語、単語リスト 14		
	3	作文 (湊)	作文クイックマスター、道警試験の傾向と対策、故事・ことわざ		
	4	作文フィードバック、文章理解、国語 (湊)	作文の総括、文章理解 (内容把握)、故事・ことわざ		
	5	文章理解、国語、英単語 (湊)	文章理解 (内容把握)、単語リスト 1、故事・ことわざ		
	6	文章理解、国語、英単語 (湊)	文章理解 (内容把握)、単語リスト 2、故事・ことわざ		
	7	文章理解、国語、英単語 (湊)	文章理解 (内容把握)、単語リスト 3、故事・ことわざ		
	8	文章理解、国語、英単語 (湊)	文章理解 (内容把握)、単語リスト 4、故事・ことわざ		
	9	文章理解、国語、英単語 (湊)	文章理解 (空欄補充)、単語リスト 5、故事・ことわざ		
	10	文章理解、国語、英単語 (湊)	文章理解 (空欄補充)、単語リスト 6、故事・ことわざ		
	11	文章理解、国語、英単語 (湊)	文章理解 (空欄補充)、単語リスト 7、故事・ことわざ		
	12	文章理解、国語、英単語 (湊)	文章理解 (文章整序)、単語リスト 8、故事・ことわざ		
	13	文章理解、国語、英単語 (湊)	文章理解 (文章整序)、単語リスト 9、故事・ことわざ		
	14	文学・芸術、国語、英単語 (湊)	日本古典文学、単語リスト 10、故事・ことわざ		
	15	文学・芸術、国語、英単語 (湊)	日本古典文学、単語リスト 11、故事・ことわざ		
	16	文学・芸術、国語、英単語 (湊)	日本近代文学、単語リスト 12		
17	文学・芸術、国語、英単語	外国文学、四字熟語、単語リスト 13			

	(湊)	
18	文章理解、国語、英単語 (湊)	過去問チェック、四字熟語、英文文章理解のコツ
19	政治 (軽部)	三権分立
20	政治 (軽部)	国会
21	政治 (軽部)	内閣
22	政治 (軽部)	裁判所
23	政治 (軽部)	日本国憲法
24	政治 (軽部)	地方自治・選挙制度
25	政治 (軽部)	民主主義の発展
26	政治 (軽部)	各国の政治制度
27	政治 (軽部)	自由権
28	政治 (軽部)	社会権・参政権・請求権・その他の人権
29	政治 (軽部)	国際政治と日本
30	日本史 (軽部)	古代～中世
31	日本史 (軽部)	近世
32	日本史 (軽部)	近代①
33	日本史 (軽部)	近代②、現代・文化史
34	政治 (軽部)	政治復習①
35	政治 (軽部)	政治復習②
36	政治 (軽部)	政治復習③
37	経済 (軽部)	経済のしくみ
38	経済 (軽部)	企業のしくみ・景気と物価
39	経済 (軽部)	金融政策
40	経済 (軽部)	財政政策
41	経済 (軽部)	為替レートと貿易・国際経済との関わり
42	経済 (軽部)	国民所得と経済成長
43	経済 (軽部)	現代日本経済の構造と課題
44	経済 (軽部)	経済学史
45	政治 (軽部)	政治復習④
46	政治 (軽部)	政治復習⑤
47	政治 (軽部)	政治復習⑥
48	日本史 (軽部)	日本史復習①
49	日本史 (軽部)	日本史復習②
50	日本史 (軽部)	日本史復習③
51	世界史 (軽部)	古代～中世ヨーロッパ
52	世界史 (軽部)	近代ヨーロッパ～市民革命
53	世界史 (軽部)	ナポレオン時代～20世紀のヨーロッパ
54	世界史 (軽部)	帝国主義～第二次世界大戦
55	世界史 (軽部)	中国史①
56	世界史 (軽部)	中国史②
57	社会 (軽部)	社会保障・情報化
58	社会 (軽部)	労働事情・環境問題・農業問題

59	日本史 (軽部)	日本史復習④
60	日本史 (軽部)	日本史復習⑤
61	日本史 (軽部)	日本史復習⑥
62	経済 (軽部)	経済復習①
63	経済 (軽部)	経済復習②
64	地理 (軽部)	気候・地形
65	地理 (軽部)	地図～生産量・輸出量・発電
66	地理 (軽部)	アジア
67	地理 (軽部)	アフリカ・ヨーロッパ・ロシア
68	地理 (軽部)	北アメリカ～漁業・産業
69	経済 (軽部)	経済復習③
70	社会 (軽部)	社会復習
71	世界史 (軽部)	世界史復習①
72	世界史 (軽部)	世界史復習②
73	世界史 (軽部)	世界史復習③
74	世界史 (軽部)	世界史復習④
75	倫理・現代社会 (軽部)	東洋の思想～現代社会
76	倫理・現代社会 (軽部)	倫理・現代社会まとめ
77	地理 (軽部)	地理復習①
78	地理 (軽部)	地理復習②
79	地理 (軽部)	地理復習③
80	地理 (軽部)	地理復習④
81	倫理・現代社会 (軽部)	倫理・現代社会復習
82	時事 (軽部)	時事問題
83	政治 (軽部)	総まとめ・択一対策
84	政治 (軽部)	総まとめ・択一対策
85	経済・社会 (軽部)	総まとめ・択一対策
86	日本史 (軽部)	総まとめ・択一対策
87	日本史 (軽部)	総まとめ・択一対策
88	世界史 (軽部)	総まとめ・択一対策
89	地理 (軽部)	総まとめ・択一対策
90	地理・倫理・現代社会 (軽部)	総まとめ・択一対策

授業科目	特殊外傷各論 A	担当教員	荒谷 和興		
対象年次・学期	3年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8回	時間数	16時間
授業目的	特殊外傷病態の的確な観察知識の習得。				
到達目標	特殊創傷の観察能力の向上と病態の理解ができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂 第10版 救急救命士標準テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70	定期試験、レポートの結果により総合的に評価する		
	レポート	30			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	発生機序と病態を理解する。 特異な症状と応急処置を学ぶ。 社会的背景を捉えタイムリーな履修を主題とする。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	災害医療	災害について		
	2	災害医療	災害に対する救急隊の対応		
	3	外傷初期診療理論	外傷による損傷		
	4	外傷初期診療理論	外傷による処置		
	5	DMAT	DMAT の実際		
	6	緊急度判断	JTAS、トリアージ		
	7	災害救助	近年の災害について		
	8	トピックス	蘇生医療の最新等		

授業科目	研究基礎 B	担当教員	三上 剛人		
対象年次・学期	3年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10回	時間数	20時間
授業目的	研究に必要な基礎的能力を育成する。 関連する研究論文を読み知見を広げる。				
到達目標	救急救命士に関連する研究をクリティークする。 1つ以上の研究論文の要点をまとめ、発表できる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポートと提出物にて評価します。筆記試験はありません。		
	レポート	80			
	小テスト	0			
	提出物	20			
	その他	0			
履修上の留意事項	研究論文を読み、他者に紹介できるようにまとめます。 講義主体ではなく、調べ学習中心で進めていきます。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	研究の概要	研究とは？救急医療における研究		
	2	関連学会	主に臨床救急医学会の学会誌を中心にした文献検索		
	3	文献選択	救急医療に関連する論文を読み込みます。		
	4	文献選択	救急医療に関連する論文を読み込みます。		
	5	レポート作成	読んだ論文が他者に伝わるようにまとめます。		
	6	レポート作成	読んだ論文が他者に伝わるようにまとめます。		
	7	小グループ討議	少人数で抄読会		
	8	小グループ討議	少人数で抄読会		
	9	大グループ討議	クラスルームでの抄読会		
	10	大グループ討議	クラスルームでの抄読会		

授業科目	総合シミュレーションⅡB	担当教員	荒谷 和興		
対象年次・学期	3年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	90回	時間数	180時間
授業目的	救急救命士の国家試験でも現場での実践力を問う状況設定問題が大きな比重を占めている。このことは、対応能力の重要性を理解することである経験を手掛かりに、学術的根拠に基づく行動を求める。				
到達目標	各種の情報から、症状（病態）を予測し一連の活動ができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂 第10版 救急救命士標準テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70	各項目ごとに実施される試験等の結果を基に総合的に評価する		
	レポート	0			
	小テスト	30			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	基本手技の習得（指導）から、特定行為までの手技を完全に習得する。 履修年間授業計画は別途。 資器材の事前準備等を考慮し、集合時すること。 グループワークが基本となるため、欠時はしないこと。 迅速・確実な行動を基本とする。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	災害医療	集団災害とは、トリアージについて		
	2	災害医療	集団災害とは、トリアージについて		
	3	災害医療	集団災害活動		
	4	災害医療	集団災害活動		
	5	災害医療	集団災害活動		
	6	災害医療	集団災害活動		
	7	災害医療	集団災害活動		
	8	災害医療	集団災害活動		
	9	BLS インストラクション	BLS 準備		
	10	BLS インストラクション	BLS 準備		
	11	BLS インストラクション	1年生への BLS 指導		
	12	BLS インストラクション	2年生への BLS 指導		
	13	BLS インストラクション	歯科衛生学科への BLS 指導		
	14	BLS インストラクション	歯科衛生学科への BLS 指導		
	15	プロトコール	器具気道確保		
	16	プロトコール	器具気道確保		
	17	プロトコール	器具気道確保		
	18	プロトコール	器具気道確保		
	19	プロトコール	血糖測定・ブドウ糖投与		
	20	プロトコール	血糖測定・ブドウ糖投与		
21	プロトコール	血糖測定・ブドウ糖投与			

22	プロトコール	血糖測定・ブドウ糖投与
23	プロトコール	気管挿管
24	プロトコール	気管挿管
25	プロトコール	気管挿管
26	プロトコール	気管挿管
27	プロトコール	救急車内実習
28	プロトコール	救急車内実習
29	プロトコール	救急車内実習
30	プロトコール	救急車内実習
31	JPTEC	JPTEC とは、基本事項
32	JPTEC	JPTEC とは、基本事項
33	JPTEC	基本動作
34	JPTEC	基本動作
35	JPTEC	基本動作
36	JPTEC	基本動作
37	JPTEC	特殊症例
38	JPTEC	特殊症例
39	JPTEC	特殊症例
40	JPTEC	特殊症例
41	JPTEC	特殊症例
42	JPTEC	特殊症例
43	JPTEC	特殊症例
44	JPTEC	学内認定（手技確認）
45	JPTEC	学内認定（手技確認）
46	グループワーク	ジグソー法
47	グループワーク	ジグソー法
48	グループワーク	ジグソー法
49	グループワーク	ジグソー法
50	グループワーク	ジグソー法
51	グループワーク	ジグソー法
52	グループワーク	ジグソー法
53	グループワーク	ジグソー法
54	グループワーク	ジグソー法
55	グループワーク	ジグソー法
56	グループワーク	ジグソー法
57	グループワーク	ジグソー法
58	グループワーク	ジグソー法
59	グループワーク	ジグソー法
60	グループワーク	ジグソー法
61	グループワーク	ジグソー法
62	グループワーク	ジグソー法
63	グループワーク	ジグソー法

64	グループワーク	ジグソー法
65	グループワーク	ジグソー法
66	グループワーク	ジグソー法
67	グループワーク	ジグソー法
68	グループワーク	ジグソー法
69	BLS 指導	中学生に対する BLS 指導 (米里中学校)
70	BLS 指導	中学生に対する BLS 指導 (米里中学校)
71	BLS 指導	中学生に対する BLS 指導 (米里中学校)
72	BLS 指導	中学生に対する BLS 指導 (米里中学校)
73	BLS 指導	中学生に対する BLS 指導 (米里中学校)
74	BLS 指導	中学生に対する BLS 指導 (米里中学校)
75	グループワーク	医療機器管理実習指導案
76	グループワーク	医療機器管理実習指導案
77	グループワーク	医療機器管理実習指導案
78	グループワーク	医療機器 (サチュレーションモニターについて)
79	グループワーク	医療機器 (除細動器について)
80	グループワーク	医療機器 (12 誘導心電図について)
81	総合演習	プロトコール・CBL 総括
82	総合演習	プロトコール・CBL 総括
83	総合演習	プロトコール・CBL 総括
84	総合演習	プロトコール・CBL 総括
85	総合演習	プロトコール・CBL 総括
86	総合演習	プロトコール・CBL 総括
87	総合演習	プロトコール・CBL 総括
88	総合演習	プロトコール・CBL 総括
89	総合演習	効果測定
90	総合演習	効果測定

授業科目	研究基礎 A	担当教員	三上 剛人		
対象年次・学期	3年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10回	時間数	20時間
授業目的	研究に必要な基礎的能力を育成する。 関連する研究論文を読み知見を広げる。				
到達目標	救急救命士に関連する研究をクリティークする。 1つ以上の研究論文の要点をまとめ、発表できる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポートと提出物にて評価します。筆記試験はありません。		
	レポート	80			
	小テスト	0			
	提出物	20			
	その他	0			
履修上の留意事項	研究論文を読み、他者に紹介できるようにまとめます。 講義主体ではなく、調べ学習中心で進めていきます。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	研究の概要	研究とは？救急医療における研究		
	2	関連学会	主に臨床救急医学会の学会誌を中心にした文献検索		
	3	文献選択	救急医療に関連する論文を読み込みます。		
	4	文献選択	救急医療に関連する論文を読み込みます。		
	5	レポート作成	読んだ論文が他者に伝わるようにまとめます。		
	6	レポート作成	読んだ論文が他者に伝わるようにまとめます。		
	7	小グループ討議	少人数で抄読会		
	8	小グループ討議	少人数で抄読会		
	9	大グループ討議	クラスルームでの抄読会		
	10	大グループ討議	クラスルームでの抄読会		

授業科目	救命処置 B	担当教員	池田 悠輔		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	23回	時間数	45時間
授業目的	現場活動に必要な知識を習得し、的確な判断、処置、観察を実施し一連の活動を理解し実際の対応を習得する。				
到達目標	救急救命士が現場で行う、観察及び処置、緊急度・重症度判断に関する基本事項を説明ができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂 第10版 救急救命士標準テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80	定期試験 80% 確認テスト提出状況 20% 定期試験・提出物等を基に総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	10			
その他	10				
履修上の留意事項	講義形式とする。必要に応じて器材等を活用する。基礎解剖生理の知識を基に傷病者観察の基本を学ぶ。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	観察総論①	観察の目的と意義、生命徴候の項目		
	2	観察総論②	救急現場活動で必要な観察と問診の方法		
	3	全身状態の観察①	外見の観察、気道観察、呼吸の性状		
	4	全身状態の観察②	循環に関する観察		
	5	全身状態の観察③	意識状態に関する観察		
	6	局所の観察①	皮膚、頭部、顔面、頸部の観察		
	7	局所の観察②	胸、腹部の観察		
	8	局所の観察③	指趾、爪、皮膚の異常と浮腫		
	9	神経所見の観察①	運動麻痺の種類と特徴		
	10	神経所見の観察②	運動麻痺の観察方法		
	11	緊急度・重症度判断	緊急度と重症度の概念と基準		
	12	中間まとめ	全身、局所観察中間まとめ		
	13	救急救命士が行う処置①	気道確保と異物除去方法		
	14	救急救命士が行う処置②	声門上気道デバイスを用いた気道確保		
	15	救急救命士が行う処置③	酸素投与方法		
	16	救急救命士が行う処置④	人工呼吸の方法		
	17	救急救命士が行う処置⑤	胸骨圧迫		
	18	救急救命士が行う処置⑥	電気ショック		
	19	救急救命士が行う処置⑦	静脈路確保と輸液		
	20	救急救命士が行う処置⑧	体位管理と創傷処置		
	21	救急救命士が行う処置⑨	救急蘇生法		
	22	在宅医療傷病者への対応	在宅酸素療法、血液透析		
23	救命処置のまとめ	救急救命士が実施する観察と処置まとめ			

授業科目	特殊外傷各論 B	担当教員	荒谷 和興		
対象年次・学期	3年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8回	時間数	16時間
授業目的	特殊外傷病態の的確な観察知識の習得。				
到達目標	特殊創傷の観察能力の向上と病態の理解ができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂 第10版 救急救命士標準テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70	定期試験、レポートの結果により総合的に評価する		
	レポート	30			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	発生機序と病態を理解する。 特異な症状と応急処置を学ぶ。 社会的背景を捉えタイムリーな履修を主題とする。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	災害医療	災害について		
	2	災害医療	災害に対する救急隊の対応		
	3	外傷初期診療理論	外傷による損傷		
	4	外傷初期診療理論	外傷による処置		
	5	DMAT	DMAT の実際		
	6	緊急度判断	JTAS、トリアージ		
	7	災害救助	近年の災害について		
	8	トピックス	蘇生医療の最新等		

授業科目	総合臨床救急 B		担当教員	荒谷 和興	
対象年次・学期	3年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	これまで学んできた知識を用い、疾患鑑別、必要な処置を理解し、国家試験の状況設定問題を解答できるようになる。				
到達目標	国家試験の状況設定問題を解答できる。				
テキスト・参考図書等	・改訂 第10版 救急救命士標準テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80	定期試験、小テスト等により総合的に評価する		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	20				
履修上の留意事項	様々な疾病を理解する。過去国家試験問題、分野別問題を中心に国家試験に対応できるよう対策を行う。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	人体の構造と機能	人体の構造と機能・生体の構成とその役割		
	2	人体の構造と機能	神経系・感覚系・呼吸系・循環系		
	3	人体の構造と機能	消化系・泌尿系・生殖系		
	4	人体の構造と機能	内分泌系・免疫系・血液系		
	5	人体の構造と機能	筋骨格系・皮膚系		
	6	疾患の成り立ちと回復の過程	成長・発達と老化・疾患・炎症と感染・循環障害		
	7	疾患の成り立ちと回復の過程	代謝障害・組織の退行性進行性変化・腫瘍・奇形・損傷・死		
	8	健康と社会保障	保健医療制度・社会保障・社会福祉・保険制度		
	9	救急医療概論	救急活動の基本・救急救命士の役割と責任・法規・災害医療		
	10	救急医療概論	救急活動の基本・救急救命士の役割と責任・法規・災害医療		
	11	救急医療概論	全体所見の観察・局所所見の観察		
	12	救急医療概論	重症度・緊急度・処置総論・処置各論		
	13	救急医療概論	在宅医療・薬物・検査・感染とその予防・放射線		
	14	救急医療概論	コミュニケーション・ストレス・安全管理		
	15	救急症候・病態生理学	心肺停止・ショック・循環不全		
	16	救急症候・病態生理学	意識障害・呼吸困難・発熱・頭痛・めまい		
	17	救急症候・病態生理学	運動・感覚・痙攣・胸痛・動悸・不整脈		
	18	救急症候・病態生理学	喀血・腰痛・背部痛・鼻出血・嘔吐・下痢・歯痛		
	19	救急症候・病態生理学	血尿・性器出血・鼻出血・嘔吐・下痢・歯痛		
	20	疾病救急医学	神経・感覚・歯・口腔・呼吸・循環・消化疾患		
	21	疾病救急医学	泌尿・生殖・内分泌・代謝・電解質・血液・免疫疾患		
22	疾病救急医学	筋骨格・皮膚・感染症・小児・高齢者・産婦人科・精神疾患			

	23	外傷救急医学	外傷総論・受傷機転・外傷性ショック・現場活動
	24	外傷救急医学	頭部・顔面・頸部・脊髄・胸部・腹部・骨盤・四肢外傷
	25	外傷救急医学	皮膚・軟部・多発・妊婦・小児・高齢者外傷
	26	外傷救急医学	熱傷・電撃症・化学損傷・異物・縊頸・絞頸・刺咬症
	27	中毒・環境障害	中毒総論・中毒各論・溺水・熱中症・偶発性低体温
	28	中毒・環境障害	高山病・減圧障害・酸素欠乏症・凍傷・環境障害
	29	まとめ	
	30	まとめ	

授業科目	総合臨床救急 A		担当教員	荒谷 和興	
対象年次・学期	3年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	これまで学んできた知識を用い、疾患鑑別、必要な処置を理解し、国家試験の状況設定問題を解答できるようになる。				
到達目標	国家試験の状況設定問題を解答できる。				
テキスト・参考図書等	・改訂 第10版 救急救命士標準テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80	定期試験、小テスト等により総合的に評価する		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	20				
履修上の留意事項	様々な疾病を理解する。過去国家試験問題、分野別問題を中心に国家試験に対応できるよう対策を行う。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	人体の構造と機能	人体の構造と機能・生体の構成とその役割		
	2	人体の構造と機能	神経系・感覚系・呼吸系・循環系		
	3	人体の構造と機能	消化系・泌尿系・生殖系		
	4	人体の構造と機能	内分泌系・免疫系・血液系		
	5	人体の構造と機能	筋骨格系・皮膚系		
	6	疾患の成り立ちと回復の過程	成長・発達と老化・疾患・炎症と感染・循環障害		
	7	疾患の成り立ちと回復の過程	代謝障害・組織の退行性進行性変化・腫瘍・奇形・損傷・死		
	8	健康と社会保障	保健医療制度・社会保障・社会福祉・保険制度		
	9	救急医療概論	救急活動の基本・救急救命士の役割と責任・法規・災害医療		
	10	救急医療概論	救急活動の基本・救急救命士の役割と責任・法規・災害医療		
	11	救急医療概論	全体所見の観察・局所所見の観察		
	12	救急医療概論	重症度・緊急度・処置総論・処置各論		
	13	救急医療概論	在宅医療・薬物・検査・感染とその予防・放射線		
	14	救急医療概論	コミュニケーション・ストレス・安全管理		
	15	救急症候・病態生理学	心肺停止・ショック・循環不全		
	16	救急症候・病態生理学	意識障害・呼吸困難・発熱・頭痛・めまい		
	17	救急症候・病態生理学	運動・感覚・痙攣・胸痛・動悸・不整脈		
	18	救急症候・病態生理学	喀血・腰痛・背部痛・鼻出血・嘔吐・下痢・歯痛		
	19	救急症候・病態生理学	血尿・性器出血・鼻出血・嘔吐・下痢・歯痛		
	20	疾病救急医学	神経・感覚・歯・口腔・呼吸・循環・消化疾患		
	21	疾病救急医学	泌尿・生殖・内分泌・代謝・電解質・血液・免疫疾患		
22	疾病救急医学	筋骨格・皮膚・感染症・小児・高齢者・産婦人科・精神疾患			

	23	外傷救急医学	外傷総論・受傷機転・外傷性ショック・現場活動
	24	外傷救急医学	頭部・顔面・頸部・脊髄・胸部・腹部・骨盤・四肢外傷
	25	外傷救急医学	皮膚・軟部・多発・妊婦・小児・高齢者外傷
	26	外傷救急医学	熱傷・電撃症・化学損傷・異物・縊頸・絞頸・刺咬症
	27	中毒・環境障害	中毒総論・中毒各論・溺水・熱中症・偶発性低体温
	28	中毒・環境障害	高山病・減圧障害・酸素欠乏症・凍傷・環境障害
	29	まとめ	
	30	まとめ	

授業科目	教養ⅢA		担当教員	湊 久恵	
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	90回	時間数 180時間
授業目的	公務員試験の教養科目としての国語及び文章理解、人文科学、社会科学分野についての実力を養成する。 消防採用試験の教養試験に合格するための実力養成、社会科学・人文科学・文章理解の得点力アップ。				
到達目標	公務員試験に合格するための国語・文章理解、人文科学、社会科学分野の知識および解答テクニックを身につける。				
テキスト・参考図書等	絶対合格シリーズ 文章理解テキスト 絶対合格シリーズ 社会科学テキスト・社会科学問題集 絶対合格シリーズ 人文科学テキスト・人文科学問題集				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70	定期試験、小テスト等を基に総合的に評価する		
	レポート	0			
	小テスト	30			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	1回～18回 担当：湊 久恵/国語辞典（電子辞書可、スマホ不可）を持参、ノートを準備する。学生の能力により内容を変更することがある。 19回～90回 担当：軽部 諭/テキストに沿って授業を展開する。必須な知識を定着させ、そこから連想して解答できるようになるよう、何度も単元を繰り返す。一度学習したところと気を抜かず、取り組むように。ノートを準備。週初回授業では小テストを行う。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス、自己紹介 (湊)	公務員試験の文章理解、故事・ことわざ		
	2	文章理解、国語、英単語 (湊)	SPI 対策、四字熟語、単語リスト 14		
	3	作文 (湊)	作文クイックマスター、道警試験の傾向と対策、故事・ことわざ		
	4	作文フィードバック、文章理解、国語 (湊)	作文の総括、文章理解 (内容把握)、故事・ことわざ		
	5	文章理解、国語、英単語 (湊)	文章理解 (内容把握)、単語リスト 1、故事・ことわざ		
	6	文章理解、国語、英単語 (湊)	文章理解 (内容把握)、単語リスト 2、故事・ことわざ		
	7	文章理解、国語、英単語 (湊)	文章理解 (内容把握)、単語リスト 3、故事・ことわざ		
	8	文章理解、国語、英単語 (湊)	文章理解 (内容把握)、単語リスト 4、故事・ことわざ		
	9	文章理解、国語、英単語 (湊)	文章理解 (空欄補充)、単語リスト 5、故事・ことわざ		
	10	文章理解、国語、英単語 (湊)	文章理解 (空欄補充)、単語リスト 6、故事・ことわざ		
	11	文章理解、国語、英単語 (湊)	文章理解 (空欄補充)、単語リスト 7、故事・ことわざ		
	12	文章理解、国語、英単語 (湊)	文章理解 (文章整序)、単語リスト 8、故事・ことわざ		
	13	文章理解、国語、英単語 (湊)	文章理解 (文章整序)、単語リスト 9、故事・ことわざ		
	14	文学・芸術、国語、英単語 (湊)	日本古典文学、単語リスト 10、故事・ことわざ		
	15	文学・芸術、国語、英単語 (湊)	日本古典文学、単語リスト 11、故事・ことわざ		
	16	文学・芸術、国語、英単語 (湊)	日本近代文学、単語リスト 12		
17	文学・芸術、国語、英単語	外国文学、四字熟語、単語リスト 13			

	(湊)	
18	文章理解、国語、英単語 (湊)	過去問チェック、四字熟語、英文文章理解のコツ
19	政治 (軽部)	三権分立
20	政治 (軽部)	国会
21	政治 (軽部)	内閣
22	政治 (軽部)	裁判所
23	政治 (軽部)	日本国憲法
24	政治 (軽部)	地方自治・選挙制度
25	政治 (軽部)	民主主義の発展
26	政治 (軽部)	各国の政治制度
27	政治 (軽部)	自由権
28	政治 (軽部)	社会権・参政権・請求権・その他の人権
29	政治 (軽部)	国際政治と日本
30	日本史 (軽部)	古代～中世
31	日本史 (軽部)	近世
32	日本史 (軽部)	近代①
33	日本史 (軽部)	近代②、現代・文化史
34	政治 (軽部)	政治復習①
35	政治 (軽部)	政治復習②
36	政治 (軽部)	政治復習③
37	経済 (軽部)	経済のしくみ
38	経済 (軽部)	企業のしくみ・景気と物価
39	経済 (軽部)	金融政策
40	経済 (軽部)	財政政策
41	経済 (軽部)	為替レートと貿易・国際経済との関わり
42	経済 (軽部)	国民所得と経済成長
43	経済 (軽部)	現代日本経済の構造と課題
44	経済 (軽部)	経済学史
45	政治 (軽部)	政治復習④
46	政治 (軽部)	政治復習⑤
47	政治 (軽部)	政治復習⑥
48	日本史 (軽部)	日本史復習①
49	日本史 (軽部)	日本史復習②
50	日本史 (軽部)	日本史復習③
51	世界史 (軽部)	古代～中世ヨーロッパ
52	世界史 (軽部)	近代ヨーロッパ～市民革命
53	世界史 (軽部)	ナポレオン時代～20世紀のヨーロッパ
54	世界史 (軽部)	帝国主義～第二次世界大戦
55	世界史 (軽部)	中国史①
56	世界史 (軽部)	中国史②
57	社会 (軽部)	社会保障・情報化
58	社会 (軽部)	労働事情・環境問題・農業問題

59	日本史 (軽部)	日本史復習④
60	日本史 (軽部)	日本史復習⑤
61	日本史 (軽部)	日本史復習⑥
62	経済 (軽部)	経済復習①
63	経済 (軽部)	経済復習②
64	地理 (軽部)	気候・地形
65	地理 (軽部)	地図～生産量・輸出量・発電
66	地理 (軽部)	アジア
67	地理 (軽部)	アフリカ・ヨーロッパ・ロシア
68	地理 (軽部)	北アメリカ～漁業・産業
69	経済 (軽部)	経済復習③
70	社会 (軽部)	社会復習
71	世界史 (軽部)	世界史復習①
72	世界史 (軽部)	世界史復習②
73	世界史 (軽部)	世界史復習③
74	世界史 (軽部)	世界史復習④
75	倫理・現代社会 (軽部)	東洋の思想～現代社会
76	倫理・現代社会 (軽部)	倫理・現代社会まとめ
77	地理 (軽部)	地理復習①
78	地理 (軽部)	地理復習②
79	地理 (軽部)	地理復習③
80	地理 (軽部)	地理復習④
81	倫理・現代社会 (軽部)	倫理・現代社会復習
82	時事 (軽部)	時事問題
83	政治 (軽部)	総まとめ・択一対策
84	政治 (軽部)	総まとめ・択一対策
85	経済・社会 (軽部)	総まとめ・択一対策
86	日本史 (軽部)	総まとめ・択一対策
87	日本史 (軽部)	総まとめ・択一対策
88	世界史 (軽部)	総まとめ・択一対策
89	地理 (軽部)	総まとめ・択一対策
90	地理・倫理・現代社会 (軽部)	総まとめ・択一対策

授業科目	救命応用 A		担当教員	北川 正博	
対象年次・学期	3年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	23回	時間数 45時間
授業目的	国家試験に合格するための知識力向上を図る。				
到達目標	国家試験に合格するための知識を身に付ける。				
テキスト・参考図書等	・改訂 第10版 救急救命士標準テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70	定期試験ならびにその他の結果により総合的に評価する		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	30				
履修上の留意事項	国家試験対策が中心となります。過去問題演習の解答・解説中心の講義となり、より多くの実践問題をこなして行きます。1・2年次に学んだ知識の活用となります。これまで学んだ内容をしっかりと見直して授業に参加の事。授業内容を定着させるためにも復習は不可欠です。同じ問題でも二度三度と解き直しをしましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	総合演習	人体の構造と機能・生体の構成とその役割		
	2	総合演習	神経系・感覚系・呼吸系・循環系		
	3	総合演習	消化系・泌尿系・生殖系		
	4	総合演習	内分泌系・免疫系・血液系		
	5	総合演習	筋骨格系・皮膚系		
	6	総合演習	成長・発達と老化・疾患・炎症と感染・循環障害		
	7	総合演習	代謝障害・組織の退行性進行性変化・腫瘍・奇形・損傷・死		
	8	総合演習	全身所見の観察・局所所見の観察		
	9	総合演習	重症度・緊急度・処置総論・処置各論		
	10	総合演習	心肺停止・ショック・循環不全		
	11	総合演習	意識障害・呼吸困難・発熱・頭痛・めまい		
	12	総合演習	運動・感覚・痙攣・胸痛・動悸・不整脈		
	13	総合演習	喀血・腰痛・背部痛・腹痛・吐血・下血		
	14	総合演習	血尿・性器出血・鼻出血・嘔吐・下痢・歯痛		
	15	総合演習	神経・感覚・歯・口腔・呼吸・循環・消化疾患		
	16	総合演習	泌尿・生殖・内分泌・代謝・電解質・血液・免疫疾患		
	17	総合演習	筋・骨格・皮膚・感染症・小児・高齢者・妊婦・精神疾患		
	18	総合演習	外傷総論・受傷機転・外傷性ショック・現場活動		
	19	総合演習	頭部・顔面・頸部・脊髄・胸部・腹部・骨盤・四肢外傷		
	20	総合演習	皮膚・軟部・多発・妊婦・小児・高齢者・スポーツ外傷		
	21	総合演習	熱傷・電劇症・化学損傷・異物・縊頸・絞頸・刺咬症		
22	総合演習	中毒総論・中毒各論・溺水・熱中症・偶発性低体温症			

	23	総合演習	高山病・減圧障害・酸素欠乏症・凍傷・環境障害
--	----	------	------------------------

授業科目	救命応用 B		担当教員	北川 正博	
対象年次・学期	3年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	23回	時間数 45時間
授業目的	国家試験に合格するための知識力向上を図る。				
到達目標	国家試験に合格するための知識を身に付ける。				
テキスト・参考図書等	・改訂 第10版 救急救命士標準テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70	定期試験ならびにその他の結果により総合的に評価する		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	30				
履修上の留意事項	国家試験対策が中心となります。過去問題演習の解答・解説中心の講義となり、より多くの実践問題をこなして行きます。1・2年次に学んだ知識の活用となります。これまで学んだ内容をしっかりと見直して授業に参加の事。授業内容を定着させるためにも復習は不可欠です。同じ問題でも二度三度と解き直しをしましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	総合演習	人体の構造と機能・生体の構成とその役割		
	2	総合演習	神経系・感覚系・呼吸系・循環系		
	3	総合演習	消化系・泌尿系・生殖系		
	4	総合演習	内分泌系・免疫系・血液系		
	5	総合演習	筋骨格系・皮膚系		
	6	総合演習	成長・発達と老化・疾患・炎症と感染・循環障害		
	7	総合演習	代謝障害・組織の退行性進行性変化・腫瘍・奇形・損傷・死		
	8	総合演習	全身所見の観察・局所所見の観察		
	9	総合演習	重症度・緊急度・処置総論・処置各論		
	10	総合演習	心肺停止・ショック・循環不全		
	11	総合演習	意識障害・呼吸困難・発熱・頭痛・めまい		
	12	総合演習	運動・感覚・痙攣・胸痛・動悸・不整脈		
	13	総合演習	喀血・腰痛・背部痛・腹痛・吐血・下血		
	14	総合演習	血尿・性器出血・鼻出血・嘔吐・下痢・歯痛		
	15	総合演習	神経・感覚・歯・口腔・呼吸・循環・消化疾患		
	16	総合演習	泌尿・生殖・内分泌・代謝・電解質・血液・免疫疾患		
	17	総合演習	筋・骨格・皮膚・感染症・小児・高齢者・妊婦・精神疾患		
	18	総合演習	外傷総論・受傷機転・外傷性ショック・現場活動		
	19	総合演習	頭部・顔面・頸部・脊髄・胸部・腹部・骨盤・四肢外傷		
	20	総合演習	皮膚・軟部・多発・妊婦・小児・高齢者・スポーツ外傷		
	21	総合演習	熱傷・電劇症・化学損傷・異物・縊頸・絞頸・刺咬症		
22	総合演習	中毒総論・中毒各論・溺水・熱中症・偶発性低体温症			

	23	総合演習	高山病・減圧障害・酸素欠乏症・凍傷・環境障害
--	----	------	------------------------

授業科目	救命処置 A		担当教員	池田 悠輔	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	23回	時間数 45時間
授業目的	現場活動に必要な知識を習得し、的確な判断、処置、観察を実施し一連の活動を理解し実際の対応を習得する。				
到達目標	救急救命士が現場で行う、観察及び処置、緊急度・重症度判断に関する基本事項を説明ができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂 第10版 救急救命士標準テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80	定期試験 80% 確認テスト提出状況 20% 定期試験・提出物等を基に総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	10			
その他	10				
履修上の留意事項	講義形式とする。必要に応じて器材等を活用する。基礎解剖生理の知識を基に傷病者観察の基本を学ぶ。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	観察総論①	観察の目的と意義、生命徴候の項目		
	2	観察総論②	救急現場活動で必要な観察と問診の方法		
	3	全身状態の観察①	外見の観察、気道観察、呼吸の性状		
	4	全身状態の観察②	循環に関する観察		
	5	全身状態の観察③	意識状態に関する観察		
	6	局所の観察①	皮膚、頭部、顔面、頸部の観察		
	7	局所の観察②	胸、腹部の観察		
	8	局所の観察③	指趾、爪、皮膚の異常と浮腫		
	9	神経所見の観察①	運動麻痺の種類と特徴		
	10	神経所見の観察②	運動麻痺の観察方法		
	11	緊急度・重症度判断	緊急度と重症度の概念と基準		
	12	中間まとめ	全身、局所観察中間まとめ		
	13	救急救命士が行う処置①	気道確保と異物除去方法		
	14	救急救命士が行う処置②	声門上気道デバイスを用いた気道確保		
	15	救急救命士が行う処置③	酸素投与方法		
	16	救急救命士が行う処置④	人工呼吸の方法		
	17	救急救命士が行う処置⑤	胸骨圧迫		
	18	救急救命士が行う処置⑥	電気ショック		
	19	救急救命士が行う処置⑦	静脈路確保と輸液		
	20	救急救命士が行う処置⑧	体位管理と創傷処置		
	21	救急救命士が行う処置⑨	救急蘇生法		
	22	在宅医療傷病者への対応	在宅酸素療法、血液透析		
23	救命処置のまとめ	救急救命士が実施する観察と処置まとめ			

授業科目	総合シミュレーションIIA	担当教員	荒谷 和興		
対象年次・学期	3年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	90回	時間数	180時間
授業目的	救急救命士の国家試験は現場での実践力を問う状況設定問題が大きな比重を占めている。このことは、対応能力の重要性を理解することである経験を手掛かりに、学術的根拠に基づく行動を求める。				
到達目標	各種の情報から、症状（病態）を予測し一連の活動ができる。				
テキスト・参考図書等	改訂 第10版 救急救命士標準テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70	各項目ごとに実施される確認試験等の結果を基に総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	30			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	基本手技の習得（指導）から、特定行為までの手技を完全に習得する。 履修年間授業計画は別途。 資器材の事前準備等を考慮し、集合時すること。 グループワークが基本となるため、欠時はしないこと。 迅速・確実な行動を基本とする。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	災害医療	集団災害とは、トリアージについて		
	2	災害医療	集団災害とは、トリアージについて		
	3	災害医療	集団災害活動		
	4	災害医療	集団災害活動		
	5	災害医療	集団災害活動		
	6	災害医療	集団災害活動		
	7	災害医療	集団災害活動		
	8	災害医療	集団災害活動		
	9	BLS インストラクション	BLS 準備		
	10	BLS インストラクション	BLS 準備		
	11	BLS インストラクション	1年生への BLS 指導		
	12	BLS インストラクション	2年生への BLS 指導		
	13	BLS インストラクション	歯科衛生学科への BLS 指導		
	14	BLS インストラクション	歯科衛生学科への BLS 指導		
	15	プロトコール	器具気道確保		
	16	プロトコール	器具気道確保		
	17	プロトコール	器具気道確保		
	18	プロトコール	器具気道確保		
	19	プロトコール	血糖測定・ブドウ糖投与		
	20	プロトコール	血糖測定・ブドウ糖投与		
21	プロトコール	血糖測定・ブドウ糖投与			

22	プロトコール	血糖測定・ブドウ糖投与
23	プロトコール	気管挿管
24	プロトコール	気管挿管
25	プロトコール	気管挿管
26	プロトコール	気管挿管
27	プロトコール	救急車内実習
28	プロトコール	救急車内実習
29	プロトコール	救急車内実習
30	プロトコール	救急車内実習
31	JPTEC	JPTEC とは、基本事項
32	JPTEC	JPTEC とは、基本事項
33	JPTEC	基本動作
34	JPTEC	基本動作
35	JPTEC	基本動作
36	JPTEC	基本動作
37	JPTEC	特殊症例
38	JPTEC	特殊症例
39	JPTEC	特殊症例
40	JPTEC	特殊症例
41	JPTEC	特殊症例
42	JPTEC	特殊症例
43	JPTEC	特殊症例
44	JPTEC	学内認定（手技確認）
45	JPTEC	学内認定（手技確認）
46	グループワーク	ジグソー法
47	グループワーク	ジグソー法
48	グループワーク	ジグソー法
49	グループワーク	ジグソー法
50	グループワーク	ジグソー法
51	グループワーク	ジグソー法
52	グループワーク	ジグソー法
53	グループワーク	ジグソー法
54	グループワーク	ジグソー法
55	グループワーク	ジグソー法
56	グループワーク	ジグソー法
57	グループワーク	ジグソー法
58	グループワーク	ジグソー法
59	グループワーク	ジグソー法
60	グループワーク	ジグソー法
61	グループワーク	ジグソー法
62	グループワーク	ジグソー法
63	グループワーク	ジグソー法

64	グループワーク	ジグソー法
65	グループワーク	ジグソー法
66	グループワーク	ジグソー法
67	グループワーク	ジグソー法
68	グループワーク	ジグソー法
69	BLS 指導	中学生に対する BLS 指導 (米里中学校)
70	BLS 指導	中学生に対する BLS 指導 (米里中学校)
71	BLS 指導	中学生に対する BLS 指導 (米里中学校)
72	BLS 指導	中学生に対する BLS 指導 (米里中学校)
73	BLS 指導	中学生に対する BLS 指導 (米里中学校)
74	BLS 指導	中学生に対する BLS 指導 (米里中学校)
75	グループワーク	医療機器管理実習指導案
76	グループワーク	医療機器管理実習指導案
77	グループワーク	医療機器管理実習指導案
78	グループワーク	医療機器 (サチュレーションモニターについて)
79	グループワーク	医療機器 (除細動器について)
80	グループワーク	医療機器 (12 誘導心電図について)
81	総合演習	プロトコール・CBL 総括
82	総合演習	プロトコール・CBL 総括
83	総合演習	プロトコール・CBL 総括
84	総合演習	プロトコール・CBL 総括
85	総合演習	プロトコール・CBL 総括
86	総合演習	プロトコール・CBL 総括
87	総合演習	プロトコール・CBL 総括
88	総合演習	プロトコール・CBL 総括
89	総合演習	効果測定
90	総合演習	効果測定

